

入選

何も言わなくても笑顔で親切

佐賀県 諸富北小学校

5年 石橋一華

私がなぜ、この作文コンクールを選んだかという、友達が毎日「小さな親切」を私にしてくれていることを文にして、感謝を伝えたかったからです。

私はいつも、学校に行く前に集合する時間におくれるので、とても申しわけないと思っています。でも、私が集合する場所におくられても、友達はいつも元気に、「おはよう」と言ってくれます。私だったら、毎日やくそくの時間におくられて来ると、その人といっしょには行きたくなくなってしまいますが、友達はかけよって来てくれて、笑顔で「おはよう」と声をかけてくれます。

あるとき、友達が1週間くらい体調が悪くて、学校を休みました。最初はいつものように、集合場所に行きましたが、友達はいません。いつも笑顔でかけよってくれるすがたがなかったのも、とてもさびしい気持ちになりました。

いつもとなりにいてくれる、やさしい友達が急にいなくなったときに、初めて私は友達のやさしさに気づくことができました。それは、おくれてきた私に何も言わずに、温かくむかえてくれるやさしさでした。私は、友達が小さな親切をしてくれていたことを気づかずにすごしていました。

何かを言ったり、何かをしてあげたりすることが親切だと思っていましたが、何も言わずに笑顔でせつすることも、大きな親切なのだなと感じました。

学校でもときどき、泣いている友達や、しょんぼりしている友達がいますが、ひとこと声をかけて「だいじょうぶ？」とそばにいてあげることも、親切ややさしさなのかとも思いました。私もけがをして、痛い思いをしたとき、私が安心できるように、ずっといっしょにいてくれた友達がいました。とってもうれしかったです。

そして、やくそくを守ることも、小さな親切だと知りました。私と友達は、集合する時間をやくそくしているので、そのやくそくを守ることによって、友達との信らい関係が深まるということも分かりました。

なのでこれからは、小さな親切をしてもらったなら、かならず「ありがとう」を伝えて、もし友達がおくれてきたら、小さな親切をわすれずに、友達がせつしてくれたときのようにしようと思いました。

かのんちゃん、いつも待っていてくれて、ありがとう。

これからは、おくれないように行くからね。